

第2回 秋田市エイジフレンドリーシティ行動計画推進委員会 議事録

日 時：平成26年11月25日（火） 13時30分～15時30分
場 所：秋田市役所議事棟第3研修室
委員の定数：13人
出席委員：10人

- 1 開会
- 2 委員紹介
- 3 議事

(1) 平成25年度行動計画進捗状況について

資料1、2をもとに、事務局から説明を行った。

委 員 長	ただいま行政の行動計画の進捗状況をご説明いただいたが、市民の行動計画について、市民の会代表の委員よりお話いただけることがあればお願いしたい。
委 員	「エイジフレンドリーあきた市民の会」の今年度の大きな事業としては、市民に対して広報活動となる「思いやりコンテスト」がある。また、秋田の良さを再認識する街歩きと、その後におせっかいカフェを開いた。新たな取り組みで、若者のロールモデルとなる高齢者を発掘する「AKB（あきたのかわいいばあちゃん）／ASJ（あきたのすてきなじいちゃん）」を始めたが、来年度以降も続けたい。 活動のメンバーが増えないこと、メンバーが他でも活動しているため、会議にしてもイベントにしても大変だということが悩みである。
委 員 長	先ほどの説明の内容について、ご質問ご意見を出していただきたい。
委 員	ボランティア活動の話だが、毎朝散策している高齢者の中には、地域のためにとゴミ拾いをしている人もいる。見えないところでボランティアをしている高齢者がいることを知ってほしい。最近駅前などで屋外のゴミ箱が撤去されてしまい困っている。観光客が一番困っているのではないか。
委 員	公園にもゴミ箱があったが、これも撤去された。
事 務 局	ゴミ箱が撤去されたのは、管理上の安全面の問題もあるのかもしれない。エイジフレンドリーシティなまち並みづくりという観点からすると、まちをきれいにして住みよい安全なまちにするという部分をどう底上げしていくかということが課題になってくる。

		行政だけでは限界がある部分なので、計画の中でどのようにやっていけばよいかご意見をいただければ、次の計画にも反映できるし、行政、市民、地域住民、企業等の役割として提案できる。
委 員	員	ゴミの問題からも、町内会の協力が大切だと言える。町内の人達を巻き込めば、働き盛りの人の意識も高まるのではないか。
委 員	長	エイジフレンドリーの視点に立ってご判断をいただければありがたいと思う。
委 員	員	ところで、高齢者の情報発信という話があったが、昨年市が行ったタブレット事業は、この計画に入っているのか。
事 務 局	局	「秋田市エイジフレンドリーシティプロジェクト」については、総務省の委託事業であり、計画策定時には採択されていなかったため、計画の中には記載していない。
委 員	員	結果は公表されているのか。
事 務 局	局	コンソーシアムが総務省に報告しているが、総務省は現段階で公表しておらず、秋田市として独自に公表することは控えている。
委 員	員	これからの高齢者の情報収集・発信として有効なのではないか。もし事業化されることがあれば、NPOが協力できることもある。
事 務 局	局	「秋田市エイジフレンドリーシティプロジェクト」については、モニターである高齢者からは一定の評価をいただいたが、今回はさまざまな条件の下での実証実験であり、費用対効果の面から事業化は慎重に検討しなければならないと考えている。
委 員	長	ほかにご意見はあるか。
委 員	員	建築士会や県などの主催で、住宅無料相談会を行っている。ニーズはあると思うが、参加者が少ないケースもあり、やり方の工夫が必要だと感じている。 高齢者（特に独居）の住宅が、建築基準法の耐震基準に達していないが、費用の問題もあり補強できないケースが多い。計画の中で建築関係のメニューを色々と挙げてもらっているが、結果として前に進めない場合も多いのが現実問題である。そこでハード面も重要だが、エイジフレンドリーの視点から見ると、コミュニティ、地域の意思疎通をどう図るのか、世代間の交流をどう回すのかも大きな問題である。うまく回ればさまざまな課題も解決できることから、地域のつながりが大事になってくる。その意味でエイジフレンドリーあきた市民の会の活動は素晴らしい。 ハードを生かすために、住民の総意でソフト面の充実も図って

- もらいたい。
- 委員 長 今回の長野の地震でも、地域の力が大きかったと報道されていた。ハードと同時にソフトも重要だということだろう。これに関連したご意見はあるか。
- 委員 地域の協力のためには、若い人を巻き込まなければいけない。働いている人が参加できるよう、事業者に市から協力を求めてはどうか。広報活動とは違った感覚で取り組んではどうか。
それから、「エイジフレンドリー」という言葉が難しい。一般の人にわかり良い言葉を行政が考えてはどうか。
- 委員 先ほど高齢者の意識改革がなかなか進まないという話があったが、エイジフレンドリーについて行政主体で行うのでは、市民に浸透せず効果が上がらない。市民に理解してもらうためには、企業や地域の団体を巻き込むといいのではないか。キャッスルホテルの「エイジフレンドリーホテル」の話題もあったが、地元の金融機関なども含め企業から理解と協力をいただければ、人、金、モノの協力は得られるだろう。市民に浸透させるには、市民に活動内容、方針など具体的なことを目にしたり耳にしたりしてもらうことが大切である。地域に貢献することを従来以上に打ち出している企業に協力してもらうことにより、行政コストをかけないような工夫ができるだろう。
- 委員 もう少し具体的な話をすると、基本方針の中の交通機関の利便性に関して、もう少し低床バスの普及を進めてほしい。
- 事務局 低床バスの導入に関しては、基本的にはバス事業者の取り組みとなるため、行政の事業として出すのは難しい。バリアフリー協議会といった関係団体の取り組みとご理解いただきたい。
- 委員 了解した。
- 委員 高齢者もだいぶ色々なイベントに参加されていると普段から感じている。先ほど銀行の話があったが、銀行のATMや病院に広報やイベントのお知らせを置くのは可能だろうか。一つのことをきっかけに横のつながりができる。きっかけ作りとなる情報発信を工夫してはどうか。
- 委員 委員から出されたように、たしかに市民からカタカナ語に対する批判は寄せられる。しかし、エイジフレンドリーシティはWHOが提唱した提言であり、新しい人類の課題と捉えていかなければならないだろう。
「国際障がい者スポーツ大会」が「パラリンピック」として定着したように、言葉の定着には50年かかる。エイジフレンドリー

一もこれからの努力によって定着していこう。

高齢者にやさしいということは全ての世代にやさしいまちを目指すという切り口から言うと、無理に日本語に直さなくてもよいのではないか。秋田を世界に発信するためには、秋田版エイジフレンドリーとして発信していくとよいのではないか。

広報活動に関して言えば、ATMや病院に置いてもなかなか徹底しないだろう。実際、市民の会で思いやりコンテストの作文や標語を小中学校に頼むと苦勞することもある。既存の社会に新しい事業が入ることの難しさをお話しておきたい。

委員 委員のお話を聞いて、高齢者だけでなく、子供から高齢者までのこととして考え、皆の協力で作っていくものだと理解できた。一人でも理解する人が増えるといいのだろう。

委員 長 高齢者の活動が若者に刺激となる社会づくりが望ましい。それを行政や企業、商店街がバックアップできる仕組みに近づきたい。市役所全課に関わる壮大なテーマなので、長い目で取り組んでいく事業だろう。

委員 先ほどのゴミ拾いについても、高齢者だけがやるのではなく子供にも教えていかなければならない。大きいことばかりでなく、小さいことの積み重ねが大切だと思う。

(2) 秋田市エイジフレンドリーシティ指標開発について

資料3～5をもとに、事務局から説明を行った。

委員 長 事務局から指標について説明をいただいたが、ご質問ご意見はないか。

委員 指標づくりは、バリアフリー、ユニバーサルデザイン分野との整合性が取れるものにしてほしい。

行政の補助金は、出すことやもらうことが目的になってしまうことがある。成果を評価して判断してほしい。企業にとっては利益と同時に社会認知度が上がることが重要なので、市民やコミュニティからの認知や評価が満足感につながる。指標のシステムとこの内容がリンクすると業界としても参画しやすい。

委員 商店街も高齢者と対話をしながら高齢者を大事にすることを心がけている。商店街の店主が開く高齢者向けの講座「タウンスクール（町の寺子屋）」を立ち上げたので紹介したい。

委員 資料にある「幸福度」とは、裏返して言えば、日常生活の不安や不満を解消することだろうと考える。高齢者の不安・不満を3

つにまとめると、①安全・安心の確保（医療、介護、災害、雪害、防犯）、②雇用や社会参加を通しての生きがいづくり（雇用、趣味娯楽活動、ボランティア活動）、③利便性の確保（交通機関、買い物、住宅のバリアフリー）となる。

事業（活動内容）が詳細だと市民はエイジフレンドリーシティの方向性を理解しづらい。ざっくりとわかりやすく、ポイントをしばって簡潔に整理してみる必要があるのではないか。

委員 私も自分なりに指標を大きく3つにわけてみた。①高齢者自身が満たされているか、不安や不安を解消する相談機関があるか。②市民や企業がそれを支えていける社会になっているか。③子ども達に対して、エイジフレンドリーの社会を作っていくことができるための教育や啓蒙ができてきているか。このような視点が必要であると感じた。

委員 「幸福度」は過去のことに対する判断であり、未来に向かって生きていくのだから、夢や希望が持てる指標が良いのではないか。「秋田に住んでよかった」ではなく、「秋田に住んでみたい」がよい。

委員長 新しい素晴らしい視点をいただいた。他に何かあるか。

委員 いままで「障がい者」という枠で物事を考えてきたが、障がい者ゲートボール大会で、外部から参加した高齢者から「障がい者と一緒に参加できて楽しい」という声をいただいて視野が広がったというエピソードがあったので、紹介しておきたい。

委員長 指標に関して今までにない視点でご意見を出していただいたので、事務局で参考にしてほしい。他に何かご質問、ご意見はないか。

委員 特になし。

(3) その他

エイジフレンドリーシティ通信第1号について、事務局から説明を行った。

委員 タイトルにおじいちゃんおばあちゃん2人のイラストはやめるよう提言したい。高齢者だけでなく子供、若者や鳥、花なども加えて、明るく、社会を支える高齢者の姿を表してほしい。

委員 同感である。高齢者のイラストでは、若い人に理解してもらえない。高齢者だけでなく、皆で取り組まなければならない。
若い人に理解してもらおうために、日本語訳は「高齢者にやさしい都市」ではなく、もっと良い言葉はないのか。

- 委員 エイジフレンドリーの概念をどう捉えるかがポイントとなる。高齢者にやさしいということは全ての世代にやさしいと捉えている。まちづくり、都市づくりは未来に向かってどのような社会をつくっていくかのイメージを皆で共有して進めることである。行動計画には行政の計画のほかに市民の計画が入っており、これからは事業者の取り組みも入れればよい。少子高齢化の状況を踏まえた上で、いかに活力ある未来に希望が持てる住みたいまちになるかを皆で考えていきたい。
- 本日いただいた意見を事務局で検討して、次回以降に生かしたい。日本語訳も含めて、さらにどのような見せ方をしたらよいか知恵を絞りたいと思うので、皆さまからもご提言いただければありがたい。
- 委員 AKB/ASJだが、ASJはAKJ（あきたのかっこいいじいちゃん）でもよかったのではないかな。
- 委員 参考にさせていただく。
- 委員長 本日は貴重な意見が多く出たので、感謝申し上げたい。これで議事全てを終了する。

事務連絡

次回の委員会は1月下旬を予定している。

4 閉会